

# 2019年3月期 上期 決算概要

---

テルモ株式会社  
常務執行役員  
北畠 一明

2018年11月8日

2019年3月期上期の決算概要について説明いたします。

## 修正後のガイダンスに沿った進捗

(億円)

	17年度上期	18年度上期	増減率	為替除く 増減率
売上収益	2,846	2,850	+0%	+0%
売上総利益	1,554 (54.6%)	1,546 (54.2%)	-1%	-0%
一般管理費	814 (28.6%)	870 (30.5%)	+7%	+7%
研究開発費	183 ( 6.4%)	238 ( 8.3%)	+30%	+30%
その他収益費用	15	37	-	-
営業利益	572 (20.1%)	476 (16.7%)	-17%	-16%
<b>調整後営業利益</b>	648 (22.8%)	553 (19.4%)	-15%	-15%
税引前利益	568 (19.9%)	445 (15.6%)	-22%	
当期利益	412 (14.5%)	345 (12.1%)	-16%	

期中平均レート	USD	111円	110円
	EUR	126円	130円

- 売上収益 : ホスピタルや血液システムが心臓血管（公定価改定や出荷遅延の影響）をカバー
- 調整後営業利益 : 費用の進捗が遅かった前年同期と比べ、今期は計画通りの進捗
- 税引前利益 : 前年同期の為替差益（4億）に対し、今年度は差損（-28億）
- 当期利益 : 修正後ガイダンス通り

 TERUMO

2/21

上期の決算のポイントは、第1四半期決算発表時に修正した業績予想の水準をほぼ達成したということです。

売上収益と売上総利益は、前年と同じ水準です。

一方、営業利益と調整後営業利益は、研究開発費を中心に経費が計画通りに前年比で大きく伸びたことから、マイナスになりました。

また、税引前利益は、それらの点に加えて、為替差損が要因となり、マイナス幅が拡大しました。

当期利益についても、これらの影響を受けて、前年比16%のマイナスでした。

## 為替影響を除き、上期ガイダンスを上回る業績を確保

(億円)

	18年度 上期予想	18年度 上期実績	差額	為替影響除く 上期実績*	差額
売上収益	2,820	2,850	+30	2,832	+12
営業利益	480	476	-4	483	+3
調整後 営業利益	550	553	+3	558	+8
当期利益	345	345	0		

\*ガイダンス修正時におけるQ2以降の前提為替レート  
(USD : 105円、EUR : 130円)



3/21

上期の業績予想との比較です。

売上収益は、30億円の上振れで、為替影響を補正しても12億円の上振れでした。

営業利益と調整後営業利益は、ほぼ業績予想通りで、対ドル・ユーロ安、新興国通貨安の為替影響を補正すると、若干上回る数値になりました。

上期は業績予想どおりの数値でしたので、下期の業績予想も現時点では変更いたしません。

ここで、愛鷹工場の状況についてアップデートいたします。

まず、滅菌のキャパシティについては、今回の問題が起こる以前の水準に回復し、現在はさらにこれを拡大する方向で注力しています。具体的には、ベトナム工場と富士宮工場の滅菌設備の活用です。

次に、出荷量です。前回8月8日には、「滅菌後すぐに出荷できるわけではなく、以前のレベルに戻る時期は8月下旬を見込んでいます」とお伝えしました。実際に9月に出荷量は戻ってきましたが、手順の変更に伴うオペレーションの混乱が一部にあり、週によっては出荷量が落ちるということもあり、9月の段階で完全に回復するには至りませんでした。ただし、10月に入ってから体制を整備し、現在は出荷のレベルも回復しています。

## 調整後営業利益：調整額

(億円)

	17年度上期	18年度上期
①買収無形資産の償却費	71	75
②一時的な損益 ※	5	2
調整額	76	77

### ※調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整項目	調整額
ニューロWEB マイルストーン支払い引当計上 (-17)	+17
和解金受取 (+23)	-23
プエルトリコ工場災害保険金受取 (+11)	-11
ベンチャー開発投資除却 (-10)	+10



4/21

調整後営業利益の調整額のご説明です。

これについては、2つの大きな要素があります。

1つは①の買収無形資産の償却費で、金額としては一番大きく75億円です。

もう1つは②の一時的な損益です。一時的な損益は、今回は2億円と小さい額ですが、10億円単位の複数の損益を合計してこの数字になっているため、補足いたします。

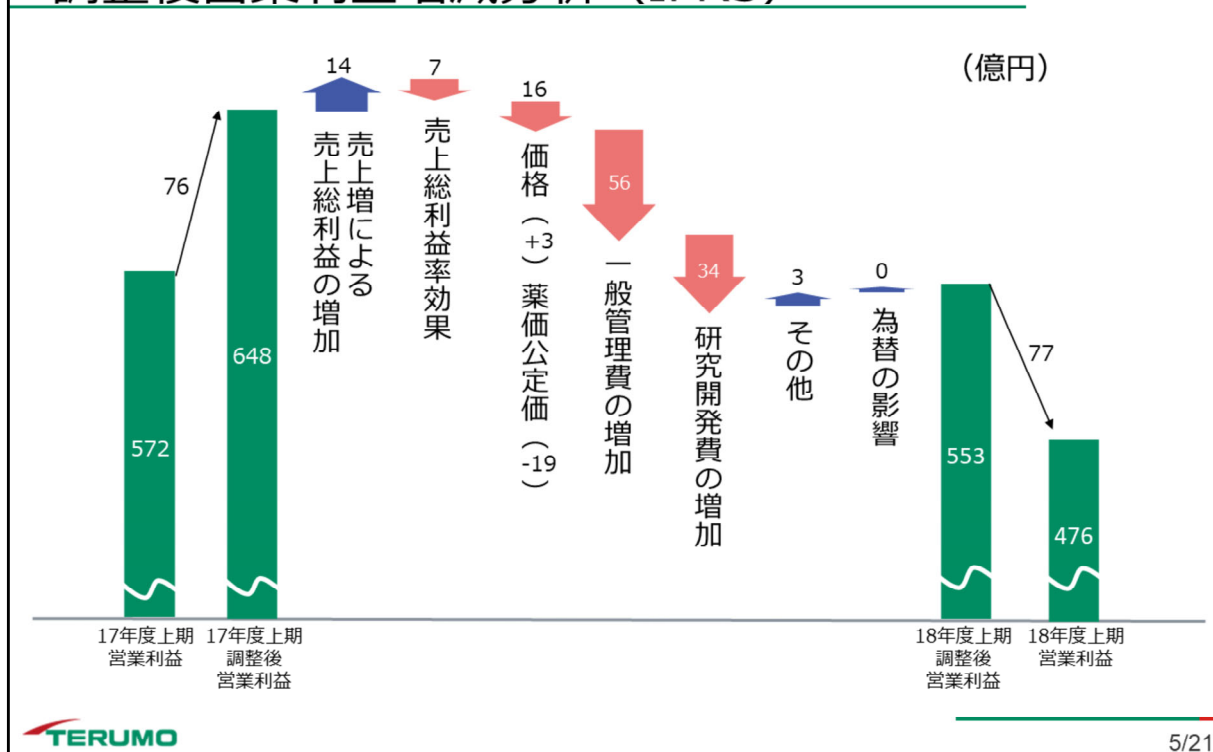
1つ目は、ニューロバスキュラー事業のWEBです。当初想定していたよりも承認の時期が早まる可能性が高まったため、マイルストーン支払いの価値が上がり、17億円を費用として引き当てました。

2つ目は、総額23億円の受取和解金です。詳細については守秘義務があるため、お答えしかねます。

3つ目は、昨年プエルトリコの工場がハリケーンで被災したことを受けた保険金受取11億円です。

4つ目は、ベンチャー開発投資の除却です。テルモは、新製品開発の一環としてベンチャー投資を行っています。中には成功に至らない投資もあり、今回はそれらを損失として計上しました。

## 調整後営業利益増減分析（IFRS）



調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」は、第1四半期は25億円のプラスでしたが、第2四半期の売上前年比マイナスを受けて、上期で14億円のプラスと縮小しました。

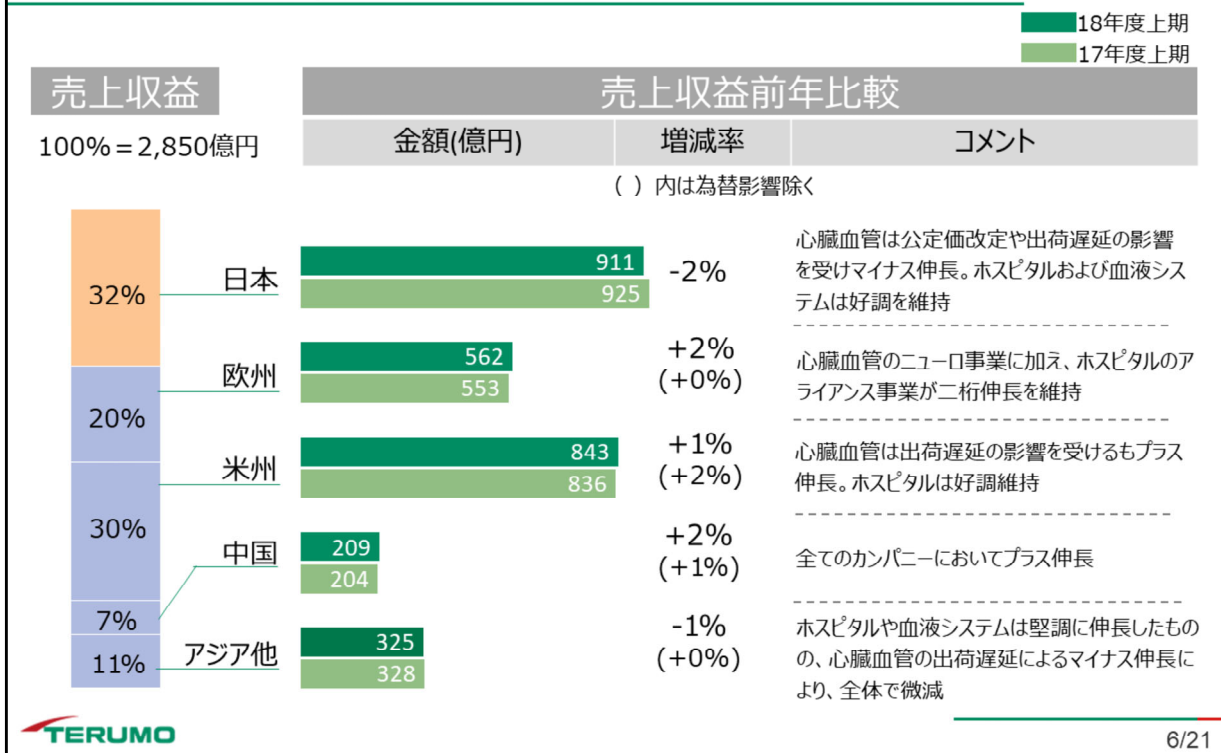
「売上総利益率効果」は、売上総利益率の高いTISの売上が減っていることから、マイナス7億円でした。

「薬価公定価」は想定どおりです。年間50億円と見ているため、半期で25億円ですが、TISの売上が少ないことから19億円のマイナスで妥当と考えています。

「価格」は、プラス3億円でした。従来は価格下落幅が大きい心臓血管カンパニーの海外に関して、今期は売上が少ないため、価格下落幅が縮小しました。さらに、血液システムカンパニーの製品で、価格が高い地域・顧客で販売が進んだため、価格全体として、プラスになりました。

「一般管理費」と「研究開発費」は期初説明のとおり、新製品に関する販売人員増や治験費用が発生しているため、前年と比べて増加しています。愛鷹工場の件はありますが、将来のための研究開発費は計画どおりに進めています。

# 地域別売上収益

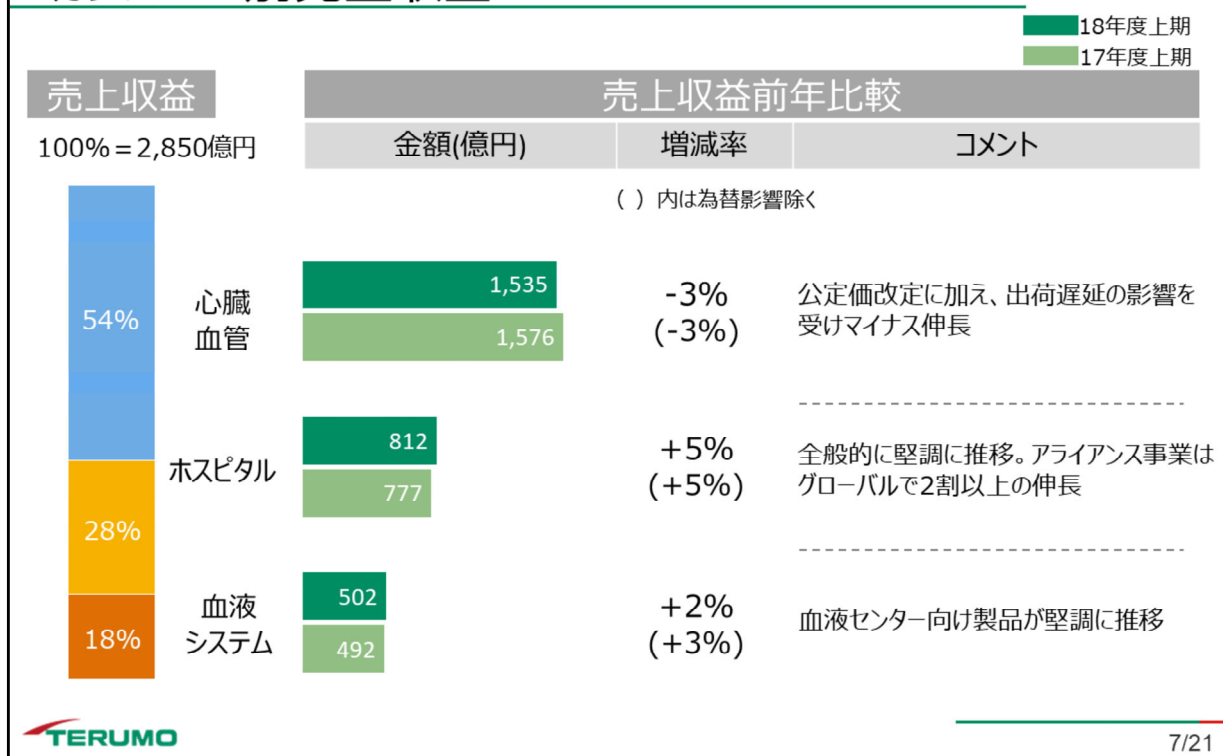


地域別売上収益です。

日本は、心臓血管のマイナスが大きく、全体では-2%でしたが、ホスピタルは+4%、血液システムは+8%と大きく伸ばしました。

海外はプラスではありますが、心臓血管の影響でプラス幅が大きく下がっています。

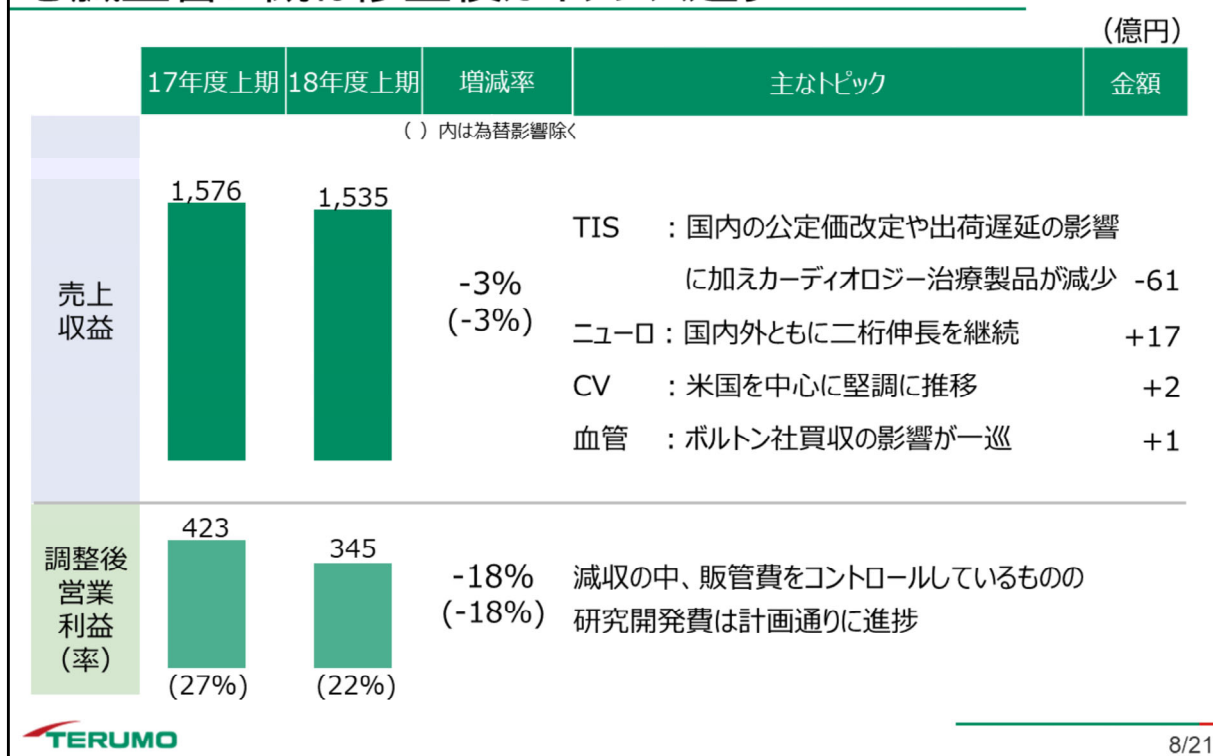
# カンパニー別売上収益



カンパニー別売上収益です。

次のスライド以降でカンパニーごとに詳しくご説明します。

## 心臓血管：概ね修正後ガイダンス通り



TISは想定どおりのマイナスですが、ニューロバスキュラー、CV、血管は引き続き好調を維持しています。

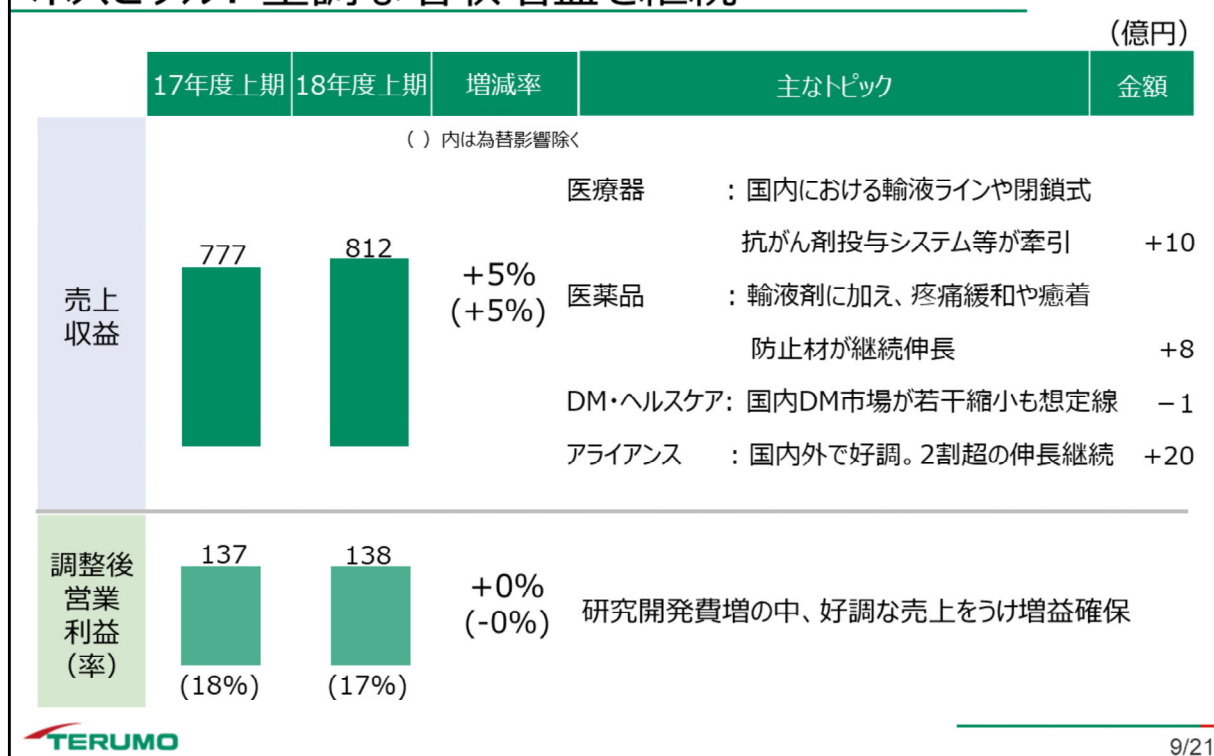
ニューロバスキュラーは引き続き二桁伸長をしており、特にハイドロコイル、欧州でのWEB、血栓吸引カテーテルSofiaが好調です。

CVと血管に関して、昨年度、CVはコンセント・ディクレー明け、血管は買収という特殊要因があり、大きく伸びましたが、今年は巡航速度に戻りました。ただし、血管は+1億円と小さく見えますが、国内外の内訳を見ますと、日本が特殊要因でマイナス、海外は+8%です。日本は胸部ステントグラフトの直販が来年予定されていることを受けて、マイナス成長になっています。

調整後営業利益は、TIS減収の中、研究開発費は計画通りに進捗、販管費も一部コントロールしていますが、一定程度発生しているため、減少しています。



## ホスピタル： 堅調な増収増益を継続

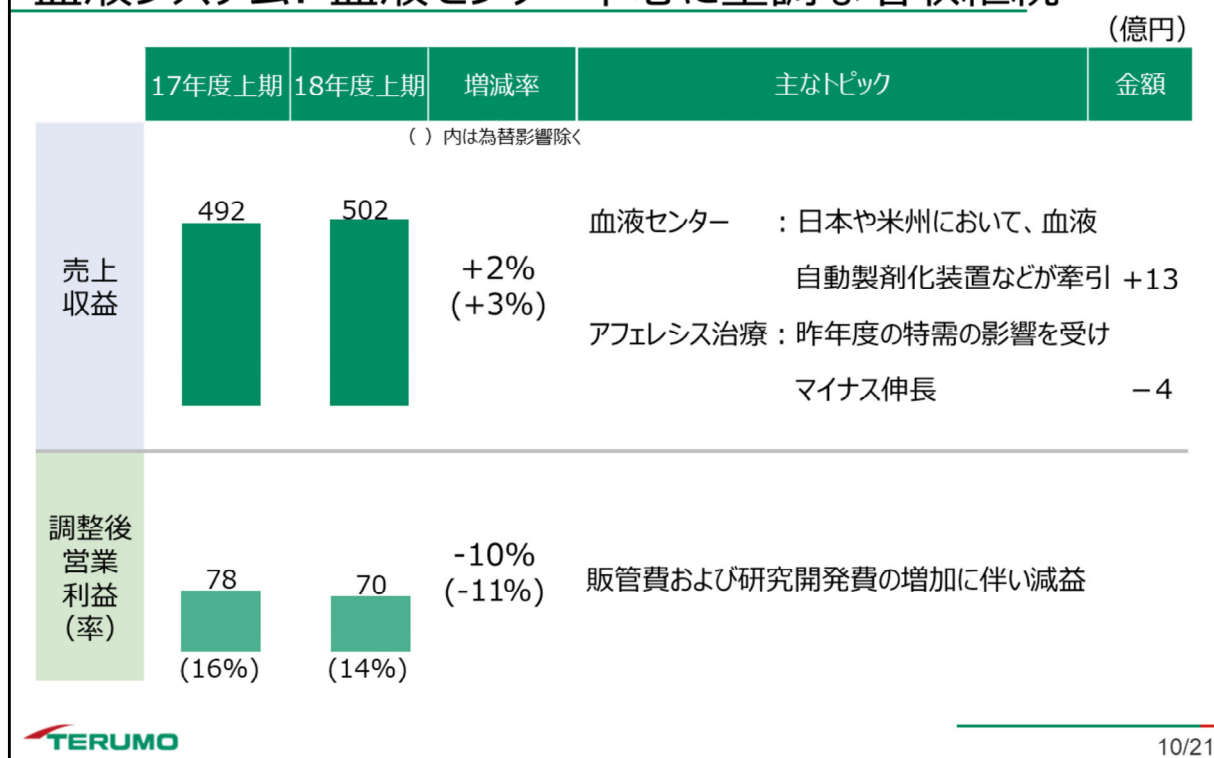


ホスピタルは3カンパニーの中で最も好調です。

売上は特にアライアンス事業が、国内外ともに20%を超える伸長を示しています。医療器、医薬品も伸びており、ホスピタル全体で5%の売上伸長です。

調整後営業利益も、若干ですが増益です。研究開発費は増加していますが、増収が功を奏しています。

## 血液システム：血液センター中心に堅調な増収継続



血液センターが好調で、13億円プラスです。アフレス治療は、昨年特需があった反動でマイナスになっています。

売上収益と売上総利益は前年比プラスですが、調整後営業利益は、販管費の増加で減益となりました。

販管費増加の主な要因は、米国レイクウッド工場の効率化プロジェクトに関する費用と政府関係の支出です。ただし、下期は経費の改善と政府助成金の受け取りにより、落ち着いてくると考えています。

## 主なトピックス

### 全社

- （CSR）テルモメディカルプラネックスにおいて、  
中学生向け「ジュニアメディカルチャレンジ」を開催（8月）
- 働き方改革の一環として、BCPも兼ねたサテライトオフィスを府中に開設（9月）

### 事業

- フェンタニル注射液「ヤンセン」の国内独占販売権を取得（7月）
- アライアンス事業のPFS生産設備増設：テルモ山口D&Dで約70億円（7月）
- テルモ山口D&D、欧州医薬品庁からPFS製造工場のGMP適合の認定取得（7月）
- 中国合弁会社、腹膜透析液の製造販売承認を取得（8月）
- 次世代人工肺「Capiox NX」、日米にて薬事承認取得（米8月、日9月）



11/21

主なトピックスです。

ご覧のとおり、ホスピタル関連の投資、承認が挙げられます。

## 18年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	領域	製品	地域
アクセス	ディスタルラジアル用止血デバイス	日	CV	次世代人工肺	◎ 日・米
心臓	PTCAバルーン	米		次期・血液モニター	◎ 欧・米・亜 Q3予定
	PTCAバルーン	日欧亜	血管	胸部用ステントグラフト (低プロファイル)	★ 欧：済み
	DES (Ultimaster Tansei)	◎ 日欧亜：済み		腹部用ステントグラフト (アナコンダ細径)	◎ 欧
ペリ フェラル	ステント (TRI)	★ 日米	医療器	静脈可視装置	◎ 日：済み
	PTAバルーン (TRI)	★ 米：済み 日：下期	DM	パッチ式・インスリンポンプ	◎ 日：Q4
	PTAガイドングシース (TRI)	★ 米：済み 日：下期	血液	次期・成分採血装置ソフトウェア	◎ 欧米亜
	薬剤塗布バルーン	◎ ★ CE取得		自動製剤化装置・新ディスポ	◎ 欧米亜
脳	中間カテーテル (Sofia EX)	◎ 欧米	◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高		
	ミニ・バルーン	◎ 欧米			



12/21

パイプラインの状況はご覧のとおりです。

## 転換社債の状況

### ■ 社債明細 (2014年12月起債)

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	3,853	5,009	13.0百万株
2021年12月	500	0.0%	3,853	5,009	13.0百万株
計	1,000				25.9百万株

### ■ 転換状況 (2018年10月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	483.0億円(96.60%)	12.5百万株(3.30%)
2021年12月満期	236.2億円(47.24%)	6.1百万株(1.61%)
計	719.2億円(71.92%)	18.7百万株(4.91%)

➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

・自己株式の状況： 9.2百万株(2018年10月末時点、取得単価3,896円、発行済総数比2.4%)



転換社債の状況です。

転換額は7月31日時点では316億円でしたが、3カ月経ち719億円と、約400億円転換が進みました。これは、この期間に当社株価が高かったことを受けてのものと推察しています。結果として、2019年12月満期の転換社債は、ほぼ100%の96.6%が転換されました。また、2021年12月満期の転換社債は、約半分が転換されています。

直近では、株のボラティリティが高くなり、結果社債の価格も上がったため、この3、4週間は落ち着いています。

# 参考資料

## 18年度上期 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	223 (-15%)	1,311 (+0%)	394 (-2%)	595 (+2%)	170 (+1%)	153 (-4%)	1,535 (-3%)
うちカテーテル※	168 (-17%)	1,053 (-1%)	313 (-1%)	456 (+0%)	158 (+1%)	125 (-7%)	1,221 (-3%)
ホスピタル	628 (+4%)	184 (+8%)	45 (+12%)	40 (+11%)	12 (+15%)	87 (+5%)	812 (+5%)
血液システム	58 (+8%)	444 (+2%)	123 (+4%)	208 (+0%)	26 (-1%)	85 (+4%)	502 (+3%)
合計	911 (-2%)	1,939 (+1%)	562 (+0%)	843 (+2%)	209 (+1%)	325 (+0%)	2,850 (+0%)

※ニューロバスキュラー事業含む  
( ) 内は為替影響除く前年比伸長率



15/21

## 販管費

(億円)

	17年度上期	18年度上期	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	411	433	+22	+5%	+5%
販促費	80	87	+7	+8%	+8%
物流費	61	66	+5	+8%	+8%
償却費	69	69	-0	-0%	+0%
その他	194	216	+22	+11%	+11%
一般管理費計	814 (28.6%)	870 (30.5%)	+56	+7%	+7%
研究開発費	183 ( 6.4%)	238 ( 8.3%)	+55	+30%	+30%
販管費合計	997 (35.0%)	1,107 (38.8%)	+110	+11%	+11%



## 四半期の動き

(億円)

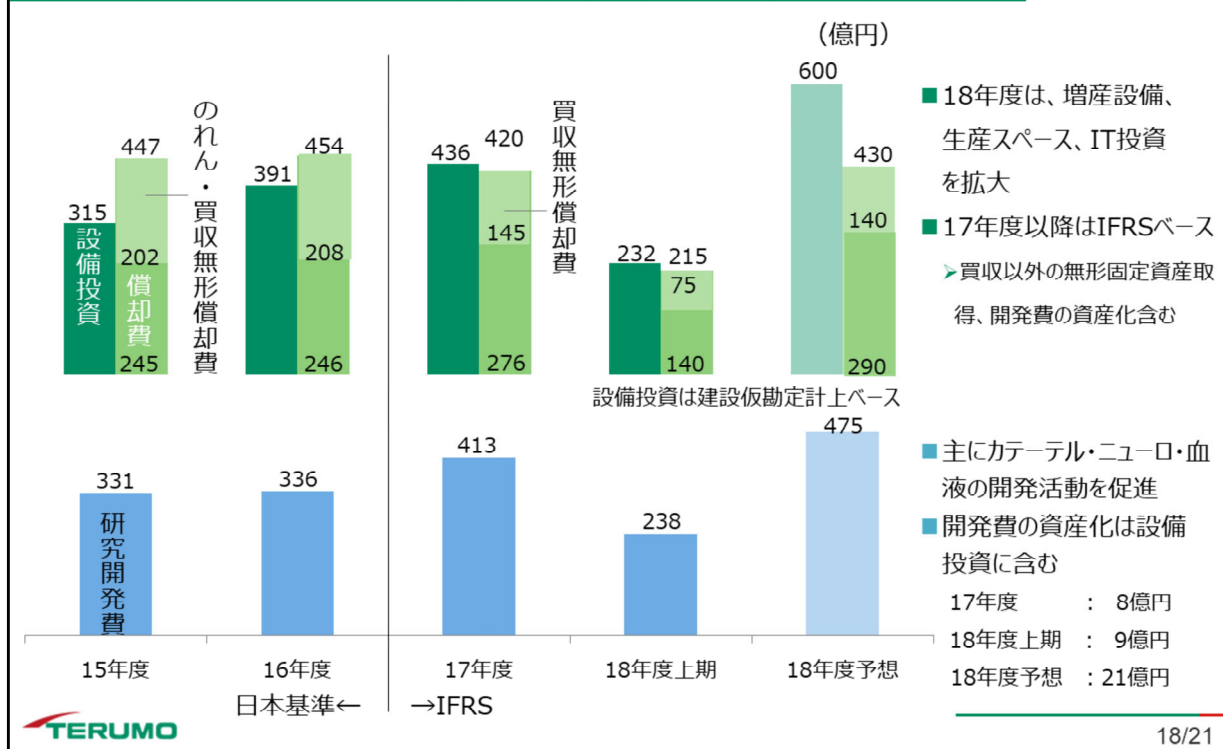
	17年度Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	18年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上収益	1,453	1,523	1,508	1,430	1,420
売上総利益	795 (54.7%)	832 (54.6%)	807 (53.5%)	799 (55.8%)	747 (52.6%)
一般管理費	412 (28.4%)	438 (28.7%)	459 (30.4%)	435 (30.4%)	435 (30.5%)
研究開発費	98 (6.7%)	107 (7.0%)	124 (8.2%)	113 (7.9%)	124 (8.8%)
その他収益費用	2	6	- 4	8	29
営業利益	287 (19.8%)	294 (19.3%)	220 (14.6%)	259 (18.1%)	217 (15.3%)
調整後営業利益	328 (22.6%)	327 (21.5%)	274 (18.1%)	305 (21.4%)	248 (17.4%)

四半期	USD	111円	113円	108円	109円	111円
平均レート	EUR	130円	133円	133円	130円	130円

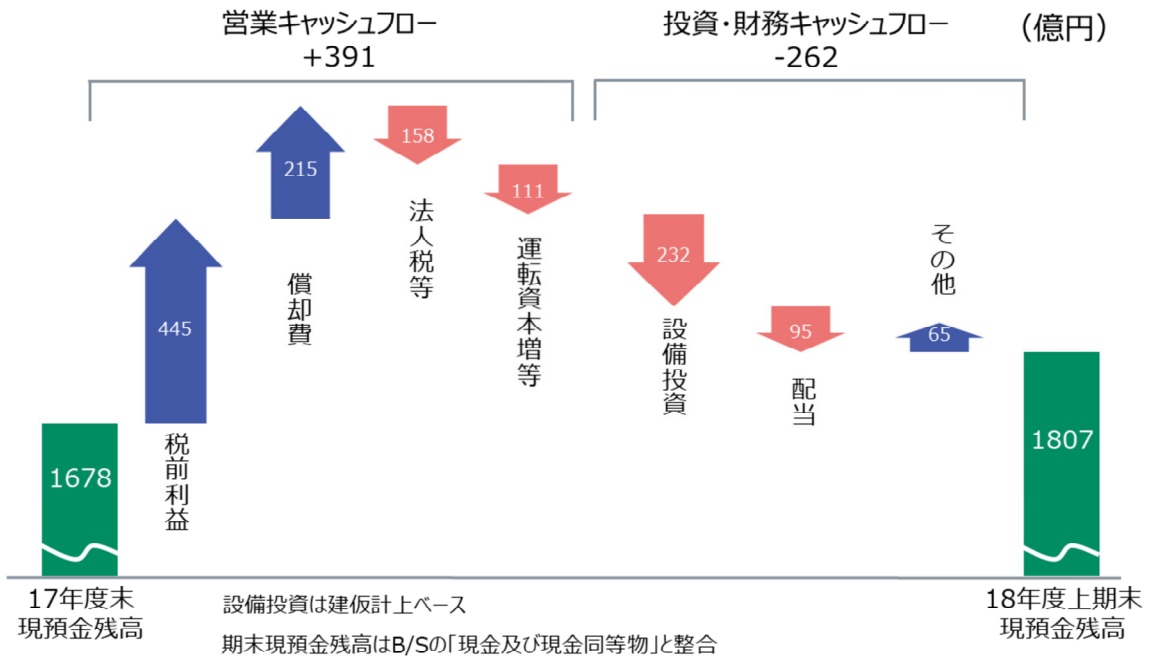
 TERUMO

17/21

# 設備投資と研究開発費



# キャッシュフロー



## 為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	16	8	20
調整後営業利益	0	5	10

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	9	60	13	17	33

## おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。